

平成28年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立田辺高等学校

学校長名： 中山 浩樹 印

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 文武両道を基本として、生徒一人一人の資質と能力の向上を図り、確かな学力と豊かな人間性を備えた生徒を育成する学校 合理的な思考、積極的な行動ができるとともに豊かな情操をもつ生徒
------------------------	--

本年度の重点目標	1 授業の充実を図り、学力の向上を目指す。
	2 キャリア教育の観点から生徒たちの将来を見据えた進路指導を充実させる。
	3 社会的ルール・校則の遵守を推し進める。
	4 生徒自治の観点から、生徒自ら各種行事に積極的に関わる態度を育成する。

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善の方策の公表の方法
ホームページ等により保護者に自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせる。

自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 2 4 日 現 在)				
重 点 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策		
1	社会を生き抜く力の基礎となる思考力・判断力・表現力等を育成するための主体的な学びの構築について意識的に取り組んでいるが、まだ十分ではないことから、積極的にその場面や機会を増やし、指導の改善を図る。	授業時間を確保するとともに、具体的な課題解決目標を設けて、授業改善が図れたか。	出張等の場合は、教務白板を利用して可能な限り振り替えを行い、補充に努める。	授業振り替え率90%以上を目指す。	今年度は各教員の振り替え努力により、課題数は例年よりも少なくすることができた。	B	事前の出張把握に努め、授業の振り替えを積極的に行って課題学習を減らしていく。		
			SGHアソシエイト校の取組を中心に、言語活動の充実やICTの活用に重点を置き、全ての教科において研究授業を行って、学校全体で学力向上に取り組む。	年間2回以上の授業研究の機会を設けるとともに、2学期に生徒による授業評価を実施し、年度内の改善に取り組む。				学校全体の取組として14回の研究授業をおこなった。また、SGHアソシエイト校として総合的な学習の時間を利用して、言語活動を充実させることができた。	引き続き授業研究を行い、授業能力の向上に取り組んでいく。また、SGHを推進し、学校全体での取り組み方を検討する。
			学校の教育力向上を図るため、言語活動やICT活用を中心とした校内研修会を継続的に実施する。	具体的な研修課題を設定し、年間6回の校内研修会を実施する。				10年研修を終えた教員が中心となって校内研修会を実施し、授業の改善を図った。	校内研修の成果を学校の教育力向上に繋げるため、参加できなかった教員とも成果を共有する。
2	進路目標実現への取組が遅れることにより、目標が達成できない生徒がいる。高校入学当初より、個々の進路意識を高めるとともに、自律的な学習習慣の確立と個人の成長を支える生徒集団育成に努めることを目標とする。	進路希望を実現するために必要な学力と意欲を育成しているか。また、それを支える生徒集団を育成しているか。有効な取組の分析を行い進路指導システムの改善を行えたか。	総合的な学習の時間と連携を図り、進路LHRと進路別説明会の充実を努める。	進路指導計画に基づいた進路LHR3回や進路別説明会2回を計画的に実施する。	学期毎の進路LHRを計画的に実施。公務員志望者への特別学習会を実施し17名が合格。	A	個々の進路希望実現に有効な取組を分析し、実施可能な手立てを挑戦的に行う。		
			生徒、担任、保護者、進路指導部、学年団等との連携を密接にし進路ガイダンスに係る個人面接の充実を努める。	生徒の学力や志望を学年で共有するため模試成績分析会を3学年は5回、1・2学年は3回行い、個人面接は5回以上実施する。				各学年成績分析会を実施し、それらを踏まえて計画的・継続的な個人面接を行った。各学年の取組にも大いに反映された。	成績分析会の内容充実などをより研究し、学年全体や個々の生徒に有効なシステムとしていきたい。
			外部人材による講義や見学会等の機会を設け、個々の進路目標の具体化を図る。	社会人講師の進路講話、大学教授の模擬授業、大学見学会などを実施する。				8大学11学部学科の教員の出前講座、21名の社会人講師講話、大学見学会(150名参加)を実施	オープンキャンパス参加呼びかけの強化も含め大学見学会の内容を研究し充実したものとしたい。
3	少数であるが依然として制服・頭髪、自転車マナー、自己の所有物の管理、携帯電話の使用について問題のある生徒が見受けられることから、校則の遵守の徹底や社会規律習得の指導に努める。	豊かな人間性育成の観点から校則の遵守や規律ある学校生活を行うよう適切な助言・指導が行えているか。交通マナー等社会規律の習得の機会を設けているか。	学校全体で高校生としてふさわしい制服・頭髪等の重点的な指導項目の具体を提示し指導の徹底を図る。	指導についての共通認識のもと学年集会を学期毎に実施し、日常的に学級担任・教科担任が指導を行う。	概ね改善傾向ではあるが、特定の生徒が同様の指導を受けている。携帯電話等のマナーについても職員の共通認識が必要である。	B	服装やマナー・ルール等の指導には、職員が節度ある毅然とした態度が不可欠である。社会に出て通用するマナーを指導していきたい。		
			登校・街頭指導、外部講師の講習会等を計画的に行い、社会規律遵守やマナーの向上指導を強化する。	登校指導を通年、街頭指導を年間3回実施する。ドライバーズセミナー等の講習会や専門家による講義を実施する。				年間を通じて自転車施錠指導を青少年センターと合同で指導。施錠率が上がり校内での自転車盗難は無くなった。単通生にも注意喚起を行った。	交通マナー等、指導が必要な生徒もおり今後も注意喚起を行う。
4	生徒会執行部を中心に生徒が自主的・主体的に生徒会行事の企画・運営を行っている。中高連携の生徒会活動の充実に向けて中央委員会や生徒総会での議論の質の向上と活性化の指導に努める。	LHR、中央委員会、生徒総会での提案内容や議論の質が向上しているか。中学校と連携して各行事内容について検討が十分行われているか。	生徒の主体的な取組を通して達成感を体験させ生徒会活動の活性化を図る。	生徒会執行部会を定例化し、週1回実施する。LHRの内容を多様化し連帯感を強める活動とする。	前期生徒総会では積極的、建設的な意見が出され、充実した議論がなされた。執行部も活発に活動している。	B	前期は行事が多く、生徒会の取組を効率よく明確にする必要がある。活動を安全に主体的に行えるよう議論したい。		
			中高連携して文化祭等の内容を検討し、自主的に企画・運営できる生徒の育成を図る。	中高一貫の特色を生かした体育祭の種目や文化祭の催しを検討する。				HR対抗、体育祭は生徒の主体性が発揮でき、文化祭は中高連携して円滑に実施できた。	中学生の活動として、体育祭、文化祭での活躍の場を増やす取り組みを検討する。

学校関係者評価
平成29年 2月14日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 授業では教員の声に張りがあり、生徒にも元気がある。考えさせることを意識した授業作りをしている。 素直でおとなしい生徒たちだが、おとなしいことが美德とは限らない。「自由の学園」を標榜しているのだから、自分の意見をどんどん言ってほしい。 随分専門的な勉強をしていると感じた。何でも持っているデジタル社会の子なので、自分の世界に入りがちではないかと思うが、少なくとも半分は人と交わる時間が必要で、そういう育て方をしてやってほしい。 地元大学への進学実績はすばらしい。子供が田辺に残ることにつながる。 SGHなどで田辺市など地元自治体と交流を進め、地域に誇りを持って発信すれば地域の活性化につながり、地元に残る子も増えるのではないかな。 数年前は不登校が心配されていたが、コミュニケーションを大事にし、丁寧に関わった結果、改善していると思う。